

1 現行の学習指導要領の成果と課題

- ・ 言語活動がやや目的化し、音楽表現そのものを高めることや、音楽のよさ等を味わって聴くことが不十分である。
- ・ 日本の歌や唱歌わらべうた、民謡などの指導が不十分である。
- ・ 音楽を学習すれば、普段の生活や社会に役立つという意識が不十分である。

2 育成すべき資質・能力を踏まえた教科等目標と評価の在り方について

(1) 教科等の特質に応じ育まれる「見方・考え方」がキーワード

【小学校音楽科】

音楽に対する感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を捉え、音楽的な特徴と音楽によって喚起されるイメージや感情、音楽と生活などとの関りについて考えること。

(2) 小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理と、教科等目標の在り方

- ◎ 表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせて、音楽に対する感性を育むとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う資質・能力を育成する。
- ① 音楽的な特徴や構造と、曲想との関わりについて理解することや、音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けることができるようにする。
- ② 様々な音楽の特徴を感じ取りながら、音楽表現を工夫することや、音楽のよさなどを味わって聴くことができるようにする。
- ③ 様々な音楽に親しみ、生活の中の音や音楽の働きに気付き、音楽を愛好する心情をもてるようにする。

・ 音楽科における知識の捉え

- ① 音符、休符、用語や記号の名前、曲名、歌詞の内容、楽器名…他
(音楽科活動を伴わない) → 誰からか教わる知識。
- ② 音楽的な特徴や構造、要素の関わり合い(知覚を伴う) → 聴いて得られる知識。
- ③ 要素の働きが生み出すよさや面白さ、曲想とその変化など。(感受を伴う)
→ 聴いて生じたイメージなどから得られる知識。
- ④ ①, ②, ③を関連付けたり、組み合わせたりしていくことが大切である。音楽の学習活動を通して構築していく知識。→ ④を大切にしたい知識を評価する。

・ 音楽科における技能の捉え

- ① 音高を捉えて発声する。正しい運指で発音する。(音楽活動をするための技能)
- ② 模唱、模奏、視唱、視奏
概ね正しい音高やリズムで楽曲を歌う。楽器で演奏する。約束事に従ってつくる。
(音楽活動、楽曲を表現するために必要な技能)
- ③ ①, ②の技能を活用して、どのように表すかについて試行錯誤させることが大切である。
(自分の思いや意図をコントロールしながら表現することができる技能)

調査官の P P 資料から (案)

- 「知識・技能」における「知識」では、「曲想との関わり」、音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについては「音楽における働き」などを明記し、一人一人が感性を働かせて感じ取ることと関連させた理解とすることとして整理した。また「技能」では、思いや意図などを音楽で表現するための技能であることを明記し、「思考力・判断力・表現力等」と関連させた技能とすることとして整理した。
- 「思考力・判断力・表現力等」では、音楽を形づくっている要素の聴き取り／知覚・感じ取り／感受することを支えとした上で、表現領域と鑑賞領域それぞれにおける資質・能力を明確にすることとして整理した。
- 「学びに向かう力，人間性等」では、感性，情操について位置付けるとともに，協働して音楽活動をする喜び，生活や社会との関わりなどについて明記し，他者とともにも音楽表現や音楽の意味や価値を創造し，音楽文化を尊重するとともに音楽文化を継承，発展，創造する態度の育成に向かうものとして整理した。

(3) 資質・能力を育む学習過程の在り方

- ・ 生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から，学んでいること，学んだことの意味や価値などを自覚する。

(4) 「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方

3 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実

(1) 資質・能力の整理と学習過程の在り方を踏まえた教育内容の構造化

(2) 現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し

グローバル化する社会の中で，子供たちには，芸術を学ぶことを通じて感性等を育み，日本文化を理解して継承したり，異文化を理解し多様な人々と協働したりできるようになることが求められている。

4 学習・指導の改善充実や教材の充実

(1) 特別支援教育の充実，個に応じた学習の充実

具体的な学習の場面で考えられる「困難さの状態」に対する「配慮の意図」と「手立て」の例については，本文参照。

(2) 「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」に向けた学習・指導の改善・充実
学習過程においてどのような場面で取り入れていくかが大切である。

(ICT の活用)

学習過程の中のどんな場面でどのような目的のために使うのが大切である。